

自己評価報告書
平成27年度

平成28年4月

学校法人 読売理工学院

専門学校 読売自動車大学校

目 次

はじめに	2
1. 学校の教育目標	
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目標	4
(2) 学校運営	
(3) 教育活動	
(4) 学修成果	
(5) 学生支援	
(6) 教育環境	
(7) 学生の受入れ募集	
(8) 財務	
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	19
5. 資料	20
資料－1 就職率	
資料－2 求人受付数	
資料－3 資格取得率	
資料－4 退学率	
資料－5 入学者数	
資料－6 学生納付金	
資料－7 学生対象授業アンケート（用紙）	
資料－8 科目の教育目標・授業計画（用紙）	
資料－9 授業概要（用紙）	
別 冊 資 料	
1. 学科教育目標	
2. 科目の教育目標・授業計画	
3. 学生対象授業アンケート集計結果	
4. 学生便覧（履修要項）	
5. 学校案内	
6. 募集要項	

はじめに

専門学校は、教育機関として、在学生在がよりよい教育を受けることができるよう、学校運営・教育活動等について常に改善を図り、教育の質の向上に努める責任がある。また、学校運営・教育活動等の学校情報を公表し、学生・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。

平成 19 年 6 月の学校教育法改正に伴う「学校評価に関わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」の公布により、専門学校における自己評価と結果の公表が専修学校設置基準上の義務となり、学校関係者評価の実施と結果の公表が努力義務となった。

平成 16 年度より本校独自の評価項目を設定し実施してきたが、平成 26 年度末に本校が職業実践専門課程の認定を受けたことを機に、文部科学省のガイドラインに基づいた自己評価の様式に沿ってまとめることとした。

「学校関係者評価」を今後も実施することで学校運営の改善に努めるが、大学で義務化されている「第三者評価」についても前向きに検討する必要があると考える。

1. 学校の教育目標

本学院の理念・目的は学院設立趣意書に「時代の要請に奉仕するためには、大学と工業高校の間を行く徹底した実技教育を目的とする。」（1969 年 11 月 20 日）と定めている通り、職業に特化した高等教育機関を目指し、読売新聞社が設立した。

本校では充実した職業教育を実施することはもとより、人間性の成長を促すことにより社会で貢献できる人材を育成する全人教育も重要な目的とし、学校運営・教育活動等について改善を常に心がけ、教育の質の向上に継続的に努めることを目標と決意する。

この決意に基づき「自己点検評価」を平成 16 年度より行っているが、平成 26 年度に本校が「職業実践専門課程」の認定を受けたことを機に「学校関係者評価」を実施している。

今後も「学校関係者評価」により学校運営の改善に努めるが、「教育課程編成委員会」を通し教育内容の改善に努めている。

これと並行して「読売式教育メソッド」を制定し、学生の「人間力」「専門力」「資格取得力」「就職力」「基礎学力」をさらに向上させるために改善を進めているが、教員の教育力・人間力の向上も不可欠である。教育力向上を実現するためには、現状の教育内容の客観的な評価が欠かせず、今後は「第三者評価」に対する前向きな取り組みが必要と考えている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

卒業生が、「最高の教育を受けることができた」と思えるよう、「人間性の成長」と「技術・知識のレベル・アップ」を実感できる教育を目標としている。その実現には、教科書に縛られず、より学生に興味を喚起する授業内容を目指し、教育手法の継続的な工夫と、教員の教育力の向上を継続的に迫及する取組みが重要となる。

自動車の技術的進化は、近年ますます速度を増している。教育内容を技術進化に対応したものとするためには、学外での教員の技術研修をより積極的に実施することと、企業現場へ教員を派遣し現在の整備体制や企業が求める人材像を具体的に把握するなどの対応が必要であり、今後の課題である。

また、研修等で教員が理解した新技術を授業内容に反映する場合は、理解しやすく興味を持たせる授業内容を工夫しなければならない。そのため、教員は新技術の裏付けとなる基礎工学等の理解度を向上させるために大学等での聴講も行える体制を作ることも今後検討する必要がある。

「教員は自動車エンジニアの先輩として、後輩である学生を大切に育てる」という校風を大切にし、教育の過程に力点を置き、理解しやすく興味を持たせる授業内容を実施するために、継続的な努力を惜しまない。ただし、卒業率、国家試験合格率を教育成果としてとらえ、学生に対する学校としての責務とする視点も忘れない。

3. 評価項目の達成及び取組状況

各評価項目に対する評価責任者は、次の通りである。

- (1) 教育理念・目標： 校長
- (2) 学校運営： 本部長
- (3) 教育活動： 学科長
- (4) 学修成果： 学科長・就職委員長
- (5) 学生支援： 学科長
- (6) 教育環境： 教務委員長
- (7) 学生の受入れ募集： 広報委員長
- (8) 財務： 本部長
- (9) 法令等の遵守： 本部長
- (10) 社会貢献・地域貢献： 学生委員長
- (11) 国際交流： 留学生相談室長

(1) 教育理念・目標 3.6 (←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 ③ 2 1
・学校における職業教育の特色はなにか	4 ③ 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

職業実践専門課程の教育課程編成委員会等において、業界ニーズを教育内容に反映できる体制ができた。しかし、現状の教育内容をより客観的な目で評価する体制が求められており、「自動車分野の第三者評価機構」の立ち上げが必要であるとする。

「読売式教育メソッド」に設定した教育目標（目標とする学生像）をより具体的に明確化し、カリキュラムに落とし込むことが今後の課題である。この作業を行うことで教育成果（アウトカム）の明確な評価が可能となる。

自動車整備士教育が特色ある職業教育そのものであるが、自動車技術と整備技術の急速な進歩に応じて継続的に教育内容の調整が必要である。そのためにも、企業との教育連携をさらに充実させることが重要となっている。

②今後の改善方策

カリキュラム編成の検討段階では、新技術を取り入れた教育内容に重点が置かれることになるが、これと並行して、基礎工学的な教育をより充実させ理解力と応用力を養成することにも注力が必要だ。

実習・学科授業の中でも、お客様対応（相手の気持ちを思いやる心）を取入れた具体的なシュミレーションを行わせる等の試みが必要である。

業界で求められる人材を育成する姿勢を今後も維持することが重要であり、育成人材像の明確化がカリキュラム作成の上でも必要である。今後は二級課程 1・2 年次の育成人材像と一級課程 3・4 年次の育成人材像とを明確に分け、各家庭で確実に能力を身に付けることを徹底すべきである。すなわち、1 級課程の卒業者は二級課程で求められる整備士としての基礎能力と、一級課程に必要な総合的な応用能力を確実に身に付けた人材を育成する体制とする。

③特記事項

平成 27 年度文部科学省受託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業」に積極的に協力し、自動車分野の第三者評価の実証実験校となった。

(2) 学校運営 3.5 (←3.5←3.0)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

施設の改善・充実を進め、学生が快適に学べる、魅力的な学校づくりを進める。特に実習施設の拡充が課題となっており、総合的な施設整備計画の策定を進める。

②今後の改善方策

当面の対策として、校内美化5か年計画を策定し、壁、柱、床などの塗り替えを順次進める。照明はLEDの導入も行ったが、さらに、きめ細かい環境対策を講じていきたい。

③特記事項

中央教育審議会の答申で、専門職業大学の創設が決まった。本校も移行可能性についてこれまで研究してきたが、前向きに検討し、準備を進めていきたい。

(3) 教育活動 1級整備学科 3.5 (←3.4←3.5)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

学生向けの企業研修等は、近年多く開催されるようになってきたが、教員向けの研修や講習はまだまだ少なく、先端的な知識を身に付ける機会は十分ではない状況である。

②今後の改善方策

企業ニーズに合ったカリキュラムを取り入れていく必要があるため、極端な先進技術だけでなく、現在の需要が高い知識、技術を習得できるような研修や講習会の開催を外部にもお願いしていく必要がある。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動 自動車整備学科 3.3 (←3.2←3.2)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4 3 ② 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

①課題

産学連携した職業教育や評価が効率よく実施されていない。各教員の個人的な資質に依存していることが多い。具体的な方法について、学校として体系的に検討する必要がある。

②今後の改善方策

まず個々の教員が、各自で資質を向上させる努力が必要である。その具体策として1級整備士を取得していない教員は1級整備士を取得すること。取得後はその知識をベースとして、より分かりやすい教育をするようさらなる努力をする。

③特記事項

特記事項なし。

(4) 学修成果 1級整備学科 3.0 (←3.4←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 ② 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

就職に関しては、卒業生全員が内定し、就職率 100%であったが、国家試験に関しては、合格率向上に向けて対策を練っている状態ではあるが、思うように合格率が上がっていない。試験レベルの変化もあるが、基礎学力の向上が課題となる。

②今後の改善方策

昨年度から資格対策日程や教育方針について改革を行っている状況ではあるが、まだまだ不足であり、今後、教育に携わる人員体制の見直しも含めて、資格合格率向上の改善策を練っていく必要がある。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果 自動車整備学科 2.6 (←3.0←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

①課題

就職に対して意識の低い学生が年々増加している。その結果、就職活動中の学生も教員からの連絡を忘れてしまい（特に留学生に多い）、就職活動に支障をきたすことが生じている。
卒業生の状況を把握する方法を構築したい。

②今後の改善方策

特に留学生の場合、入学選考時点で日本語能力と学力をチェックする必要がある。また今以上に丁寧な指導が必要である。可能であれば卒業生の就職先人事部に調査等を依頼し、卒業生の現況、在籍状況等を把握する。

③特記事項

特記事項なし。

(5) 学生支援 1級整備学科 3.4 (←3.3←3.5)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

①課題

在校生に対する基本的な支援体制は確立されているものの、学校生活における支援においては学生生活上の空間や授業カリキュラムの関係から、十分とは言えない状況である。

②今後の改善方策

早急に実施できる事項ではないが、実習場や座学教室を含め、環境整備を行っていく必要がある。

③特記事項

特になし

(5) 学生支援 自動車整備学科 3.3 (←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 ② 1

①課題

社会のニーズを的確にとらえることは簡単ではないが、社会のニーズに沿った教育をしていかないとよい教育にはならない。

②今後の改善方策

教員が外部の研修に積極的に参加し、業界の情報を得てカリキュラムに反映する。また企業の人事担当と会ったときに業界の現状を聞き、学校教育で何が必要かを検討する。

③特記事項

特記事項なし。

(6) 教育環境 3.7 (←3.3←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・実習スペースが不足ぎみである。 ・施設、設備の老朽化
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・スペースの有効利用のため、不要品の廃棄、外部倉庫の利用、同時に実施する実習内容の検討 ・優先順位を付け施設、設備の改善工事を実施
--

③特記事項

<p>実習作業スペースの有効利用の為、学生用の荷物棚を実習場に設置した。 学科教室の有効利用の為に机・椅子の追加設置をおこなった。</p>

(7) 学生の受入れ募集 3.7 (←3.7←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・学生募集は、適性に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

①課題

18歳人口が減少している中で大学進学者が増加し専門学校への進学者が減少している。その中で優れた日本人学生を獲得するには、優れた設備、教育内容、教員の資質が求められ、またそれを分かりやすくアピールする広報活動が重要である。魅力ある専門学校とは、魅力ある職業(就職先)と直結していると考えられるので、自動車整備士という職業の魅力を理解してもらう事が重要である。実際に整備士の社会的地位や待遇面に不安を抱く高校生や高等学校関係者が存在する。

現状では、目標入学者数を確保するために留学生の受け入れ枠を多くせざるを得ないが、割合が年々増加しており、言葉や文化の違いから授業や学生指導に大変な労力が必要になってきている。従って、留学生を受け入れつつ、一定以上の日本人学生を確保するための方策を早急に検討する必要がある。

②今後の改善方策

体験入学や説明会、高校訪問を通じて学校の魅力を伝えることは勿論ですが、自動車整備士の魅力や、やりがい、将来性について理解をしてもらえるように話す内容を工夫する。

体験メニューを増加、又は変更し、参加者、特にリピーターなどを飽きさせず、かつ自動車整備士の魅力が伝わるような内容を考える。

女子学生の増加を図るために女性も過ごしやすい校内環境を考える。

既卒者への積極的アプローチ方法を考える。

③特記事項

特になし

(8) 財務 3.5 (←3.5←3.2)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適性に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1

①課題

学生募集に教職員挙げて取り組んできたが、平成28年度入学生は27人減の196人だった。収入の大半を占める学納金の確保が、安定した財政基盤をつくるためには欠かせない。また、学生の退学・除籍率を10%以下とすることや、学納金滞納者への粘り強い指導など、教員と事務局が連携して取り組む必要がある。

②今後の改善方策

貸し教室などの収益事業をさらに強化することで、財務内容を改善していきたい。また、支出項目については、相見積もりの徹底を引き続き実施し、いっそうの経費節減を図る。

③特記事項

全教職員に協力を求め、指定金融機関に経費口座を開設してもらい、出納業務の簡素化、手数料負担の削減を実現した。

(9) 法令等の遵守 3.8 (←3.5←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

個人情報保護方針・規定・細則を平成 27 年 12 月に策定し、情報保護の責任者を配置した。また、28 年のマイナンバー導入に合わせ、特定個人情報保護規定を策定した。しかし、企業へのサイバー攻撃などが相次いでおり、漏えい防止のため、個人情報の持ち出し禁止、保管場所の施錠などを徹底するとともに、保有する個人情報の台帳管理を継続実施する。

②今後の改善方策

教職員に、不審メールのファイルは絶対に開かないよう指導しているが、今後も、会議のたびに、具体例を挙げながら、注意喚起をしていく。

③特記事項

学生を巻き込むトラブルなどは、覚知した時点でまず報告することを義務付け、教職員一人ひとりに迅速な対応を求めている。学校での危機管理の重要性について、所属長を中心に、全教職員の自覚を求めていく。

(10) 社会貢献・地域社会 2.7 (←3.0←3.0)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 ② 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・自動車業界の発展や、若者の自動車離れにおいて本校が出来ることは何か？を模索している。 ・日頃の地域住民との交流や、本校への理解など、創立してからの歩みを、もう一度振り返り、これからの、この地域での本校の存在意義など考えていく。 ・社会人に必要なモラル、マナー、法令順守はもちろんのこと、社会への貢献を常に念頭に置き学生への指導及び教職員取り組み事項として考えいく。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・広報と連携し、学校紹介を地域に行い、自動車に関する問い合わせなど、教育機関としての情報発信や情報収集に努める。 ・本校が現在の地にある事への地域への影響など、周辺状況を客観的に見ていく。 ・学生の地域に対する意識や、地域施設などの利用状況を確認する。 ・日本テレビ24時間TVのボランティア活動を通して、地域への恩返しとともに、社会貢献の一環として、学生の参加を促す。 ・地元企業との協力を得て、教育機関のノウハウを駆使し、小中学校の校外学習などの協力を行う。

③特記事項

特になし

(11) 国際交流（必要に応じて） 3.0（←3.0←2.7）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか	4 ③ 2 1
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 ② 1

①課題

漢字圏の留学生が減少し、ベトナム等の非漢字圏の留学生が増加している。会話能力が優れていても、読み書き等の能力が劣る場合もあり、留学生の入学選考では注意が必要である。

②今後の改善方策

- ① 日本語能力を適正に測定し、判定するための本校独自の日本語筆記試験を実施しているが、更に適正化する必要がある。（日本語能力試験：N2、又は日本留学試験日本語：200点、又はBJTビジ初日本語能力テスト400点以上の日本語能力が必要）
- ② 入学試験における面接試験で、能力評価や職務の適性などを厳正に評価する。

③特記事項

国際交流においては、毎年、本校在学学生の中から選抜（経費学校負担）あるいは希望（経費自己負担）により、オーストラリアの語学研修（ハイロンバイイングリッシュランゲージスクール：10日間）に派遣しており、本年度は2名が参加した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成 27 年度は、昨年度に続き、企業で行われている実践的な実習内容を取入れること、「読売式メソッド」をより具体化しカリキュラムへ落とし込むこと、退学率の改善などを目標とし、取り組んできたが、今後も継続して取り組むべき課題である。

一級課程、二級課程とも共通して、国家試験の合格率が若干低下したことに対しては対策授業の見直しが必要であるが、授業内容や教育計画についても検討する必要がある、次年度には良い結果を出すため、具体的な取り組みを実施することが重要課題である。

一級課程においては、電気自動車の普及と EV 用充電器のインフラ整備が政府の方針となっていることを受け、一級整備士課程のカリキュラムの中に選択教科として「第二種電気工事士」の資格取得のための教育を実施したが国家試験に全員合格することはできなかった。これを踏まえ授業内容並びに時期や教育時間数についての見直しが必要である。

二級課程での実習授業においては、以前からハイブリッド車を実習授業に取り入れるなど新技術への対応を行っているが、次年度はコモンレールが二級課程教科内容に新たに組み入れられたことに対応するため、コモンレールの実習教材の導入を行う予定である。今後も、自動車技術の最新動向と整備内容の変化を把握し、授業内容を見直し改善することを通して職業に特化した教育を実現する方向性を持ち続ける必要がある。今年度の退学率に関しては、1 年生の退学率が高くなっており、その理由の主なもの「進路変更」「学力不足」「単位数不足」が多かった。この年度は、実習教育の充実を目的に実習時間数を増加させた年度に当たっている。これに伴い、学科教育時間が若干減少したことによる問題点も検討が必要と考える。教育内容の改善に取り組むことと並行し、臨床心理士カウンセラーとも連携するなど、学生の学習意欲の向上対策を広い視野で検討すべきである。

「読売式教育メソッド」は、「人間力」「専門力」「就職力」「資格取得力」「基礎学力」の五つの柱を明文化し、創立以来の伝統である「面倒見のよさ」「少人数主義」に代表される教育方針を、学生にどんな力が身につくかという観点からまとめ直したもので、本校の教育手法の特色と強みをわかりやすく打ち出した。今後は、教育の実践内容（アウトプット）を明確化するだけでなく、その結果である教育成果（アウトカム）を評価するためには、本校が育成したい人材像をより明確にし、それをカリキュラムに反映する取り組みを今後も継続的に取り組む必要がある。

学生募集に関しては、少子化が進む厳しい状況下での活動であったが、平成 26 年度に続き新入生数を確保することができた。ただし、この結果は留学生の増加によるところが大きいため、長期的に安定した学生募集を行う上では女性を含めた日本人学生の募集強化に努めることが重要となっており、次年度以降の継続的な課題である。